

# 情報連絡員報告総括表(令和2年11月分)

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況						
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製造業	食料品		2	2	1	3		1	3			4			1	3			1	3			4			4			1	3	
	繊維工業		1	2	1	1	1		3			3			2	1			2	1			2	1			2	1		1	2
	木材・木製品			1		1			1			1			1				1				1				1			1	
	紙・紙加工品			2		1	1		1	1		1	1		2	1	1				2			2				2		2	
	印刷			1		1			1			1			1					1			1				1			1	
	化学・ゴム																														
	窯業・土石製品	1		2		3			3		3			2	1		3			3			3				1	2			
	鉄鋼・金属		1				1		1		1				1		1				1		1				1			1	
	一般機器	1	1	1	1	1	1		3		3		1	1	1		3		2	1			3			1	1	1	1	1	
	電気機器			1			1		1		1				1						1		1			1			1	1	
	輸送機器			1			1		1		1				1						1			1			1			1	
	その他																														
小計	2	5	13	3	11	6	1	18	1		17	3	1	6	13	1	12	7	2	10	8		18	2	1	4	15				
非製造業	卸売業		2			2		2		2			1	1		2						2				1	1				
	小売業	2	3	1		5	1	2	3	1		5	1		4	2		4	2			6				5	1				
	商店街			1			1		1			1			1				1				1				1			1	
	サービス業	1	4					2	3			5		1	4			4	1			1	4				5				
	建設業	1	3						4		1	3		1	3			4					4			1	3				
	運輸業	1							1			1		1				1					1			1					
	その他			1						1		1				1		1					1						1		
小計	5	12	3		7	2	4	14	2	1	17	2	3	12	5		16	4			1	18	1		2	14	4				
合計	7	17	16	3	18	8	5	32	3	1	34	5	4	18	18	1	28	11	2	10	8	1	36	3	3	18	19				

## 最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(令和元年11月～令和2年11月)

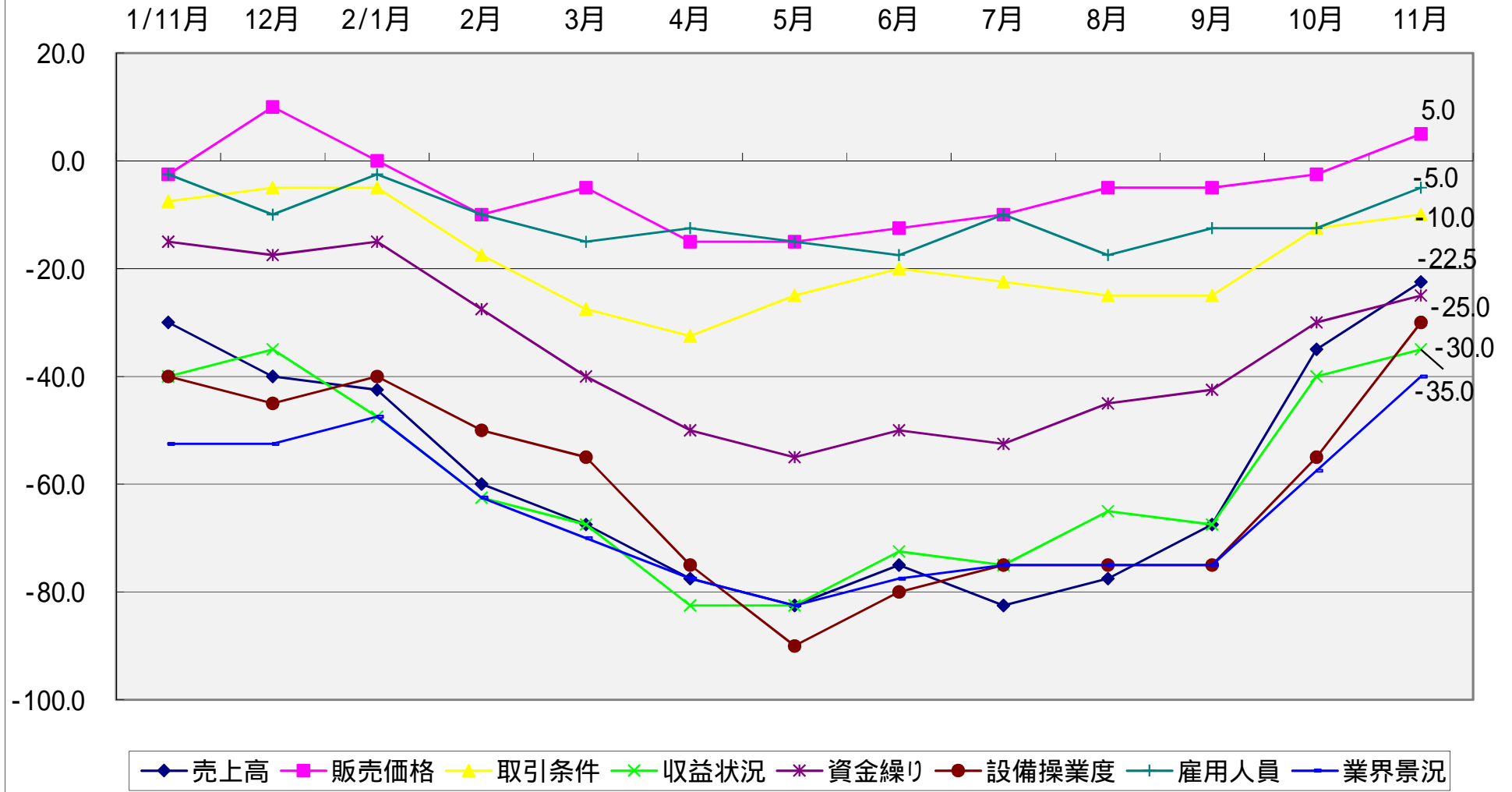
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	1/11月	12月	2/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-30.0	-40.0	-42.5	-60.0	-67.5	-77.5	-82.5	-75.0	-82.5	-77.5	-67.5	-35.0	-22.5	12.5
販売価格	-2.5	10.0	0.0	-10.0	-5.0	-15.0	-15.0	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	-2.5	5.0	7.5
取引条件	-7.5	-5.0	-5.0	-17.5	-27.5	-32.5	-25.0	-20.0	-22.5	-25.0	-25.0	-12.5	-10.0	2.5
収益状況	-40.0	-35.0	-47.5	-62.5	-67.5	-82.5	-82.5	-72.5	-75.0	-65.0	-67.5	-40.0	-35.0	5.0
資金繰り	-15.0	-17.5	-15.0	-27.5	-40.0	-50.0	-55.0	-50.0	-52.5	-45.0	-42.5	-30.0	-25.0	5.0
設備操業度	-40.0	-45.0	-40.0	-50.0	-55.0	-75.0	-90.0	-80.0	-75.0	-75.0	-75.0	-55.0	-30.0	25.0
雇用人員	-2.5	-10.0	-2.5	-10.0	-15.0	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-12.5	-12.5	-5.0	7.5
業界景況	-52.5	-52.5	-47.5	-62.5	-70.0	-77.5	-82.5	-77.5	-75.0	-75.0	-75.0	-57.5	-40.0	17.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	秋の長雨の影響により初期生育が悪く生育の遅延が見られたが、その後は天候に恵まれ、生育の回復が見られた。野菜全般が豊作のため漬物原料の野菜は順調な入荷となっている。しかし、生産者の高齢化と後継者の不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。また販売状況においても、コロナウィルスに関わる外出自粛の影響により、道の駅、土産物店等での土産物の漬物の販売及び外食産業での需要が大きく減少している。
	醤油味噌	コロナも第3波となり、南勢が特に不況である。全般の動きが悪かった分は、月ズレで少し動きだしてきた模様だが、ここでまた自粛モードで不況となるか心配である。ふるさとのしょうゆ1,009名様プレゼントキャンペーンは全国で34,051名の応募中、三重県へは640名の応募があり、38名様が当選した。
	豆腐	外食産業への食材としての豆腐揚げの納品は、10月、11月と少し回復済みであったが、コロナ第3波の影響で、忘年会、新年会が自粛モードの中、今後、昨年比で大幅に減少すると思われる。
	製麺	コロナ禍の中であるが、第3波がきて、まだまだ予断を許さない状況である。ただ、コロナの中で学んだ新しい取り組みに向けて1歩1歩進んでいく方向である。組合としては10月27日に会合を持った。組合員の状況を聞いて新たな取り組みにチャレンジしていけるように打ち合わせをした。HACCPの取り組みも1つ1つ改善して取り組んでもらっている。これからも時代に対応した事にチャレンジしていけるように取り組んでいく。
繊維工業	組紐	第3波による動向が気になる。夏用アイテムの注文がない。
	衣料縫製	大変厳しい状況は変わらず、マスクと防護服の製造に助けられている。今後の情勢を見守っていく。
紙・紙加工品	紙器段ボール	コロナの影響で需要期であるのに不発、荷動き低迷はしている。自動車関連の段ボールが復調し、生産増が続いているが、相対的に5%~30%(各社様々な状況である)、前年対比で売上が落ちている。
	古紙	11月期の仕入れ量は：段ボール・約98±7%位、新聞、チラシ・約91±8%位、雑誌、雑紙、その他・合わせて約93±8%位と思う。組合員の中で全般的に段ボールは仕入れ増、新聞・雑誌・古紙は激減の傾向である。新聞購読料値上げが有り更に購読部数が減少した様に思える。雑誌は鬼滅の単行本がヒットしても低調の様で月刊誌等も2カ月ごとや廃刊になるものも有る様である。天災や少子化・高齢化・スマホ利用等が根底にある様に思う。コロナ禍で巣ごもり消費の宅配便等で段ボール需要は有る様であるが、管政権のデジタル庁に於けるIT・DX・AI化や行政文書のハンコ廃止によって、更に用紙の消費減は加速され時間で2~3年・規模で2~3倍進んだような感である。中国の廃棄物輸入規制は古紙にも適応され原紙輸出の引き合いがありフル生産の国内製紙会社も有る様である。古紙問屋の古紙在庫は製紙会社様の在庫となり古紙余剰は緩和されている様である。最低賃金は上昇し賞与は減額された企業が多いが、テレワーク等増収増益の企業もある様である。年の瀬で年末年始の繁忙と火事・事故+コロナ対策と心労や経費が押し掛かる。勿論、ゴミ等の不法投棄や古紙の持ち取りも無くならず、正月も回収が有り気が抜けない。
印刷	印刷	新聞の折り込みチラシは、少し需要が戻ったものの多くはサイズが半分(B4判)になったの受注であった。パッケージ印刷は、観光客が土産物を控える傾向にあり受注が伸びない。リモート・オンラインにより資料や冊子の電子化が進んでいる等々、コロナ禍により非常に厳しい業況が続いている。
窯業・土石製品	伊賀焼	回復傾向にあった客足が新型コロナウイルスの第3波の影響で陶芸教室を含め、再び落ちてきている。今後の動向が心配である。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の11月の生産高は10月と比べ若干ではあるが多くなってきている。自動車関連部品、建築金物ガス関連、その他全般的に伸びている。半導体関連は10月よりも生産高は落ちている。しかし年明けより生産が回復するとの見通しが業界全般の観測である。
一般機器	四日市	行政によるGo toの実施により、11月は先月に比べ、経済活動がわずかながら回復した。環境の悪化は続き、コロナ感染も冬に向かい拡大の傾向がみられる。そうした中、当組合では各々の企業が独自の対策で努力している。
	津市	2020年前半の受注減の分が一気に11月になって注文がきた感じで、自動車関連については、100%を超えた。しかし、急激な注文増により材料の納入が追いつかない状況が発生している。また、このような極端な注文の増加の3ヶ月後には急な落ち込みの可能性もあり、先が読めない状況である。
	伊勢	業況は低水準ながら緩やかに持ち直しつつある感じがする。今後も新型コロナウイルスの対策を進めながらの経済活動の活性化と持ち直しを図る事になる。今後の感染状況により、下振れリスクも大きいと思われる心配している。
電気機器	鳥羽	新型コロナウイルスの影響が深く、受発注が20~30%ダウンの状況が続き、経営の不安を感じている。
輸送機器	鈴鹿	直近の計画数や内示数は急激に需要が回復しており非常に繁忙であるが、前年同月比ではまだマイナスの状況である。同じ工業団地内の試作開発をメインとする企業では新規の仕事が多数延期になり今後すぐの回復が見込めないとのことで不動産を売却し、規模を縮小して他所で事業を継続することになった。
	青果	野菜前半：果菜、葉菜類とも入荷が順調で安値である。白ネギ、ブロッコリー、白菜、ほうれん草の入荷が多くなり、価格も下がってきた。北海道産の玉葱、じゃがいもも安値で安定している。野菜後半：天候もよく、入荷が順調である。果菜、葉物は前半よりさらに値下がりがしている。特に白菜、キャベツ、大根、ほうれん草等は安値である。この週末は野菜の食べ時である。しかしながら野菜の生育が早いので年末には品薄になる心配がありそうである。果物前半：山形産ラ・フランスが例年より大玉で味も良い。リンゴは長野産ナノスイートが終盤になり、ふじの入荷が始まった。みかんは県内、和歌山、静岡、愛知等、多様な産地でわせ種が入荷している。果物後半：みかんのわせ種が豊富で昨年より入荷が2割程多く、各産地とも味も良く、年末は需要が多くなり値上がりするため、安くて美味し今が食べ時である。柿は岐阜の富有柿の入荷が少なく、高値である。いちごは順調に入荷している。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
小売業	自転車	これから自転車業界は静かな季節に入っていく。その所々例年に比べて大きく変わらない状態に戻ってきたような気もする。来春需に向けてしっかり準備をしておかなければならない。諸外国においては、コロナ禍の中、自転車の有用性が宣伝されているようであるが、日本国内においてはさっぱりである。また、最近自転車の運転を諦める高齢者の自転車への再チャレンジが目立ってきている。しかし、長い間自転車に乗らずにいた人達の中には少なからず、再び自転車に乗る事ができない人がいる。このようにならないように、たまには自転車に乗っておく事をお勧めする。
	電器	11月は、前年に対してはアップ出来た。ただ、前年10月の消費税のアップによるその後の買い控えがあり、単純に販売としては比較はできない。商品別には大画面有機ELテレビ・暖房対応エアコン・コロナ関連空気清浄機が好調で販売を牽引している。長引くコロナ禍の中、組合加盟各店の活動ではコロナ感染拡大に対応する手指の消毒・ソーシャルディスタンスを保つ距離での説明・マスクの着用等をしながら活動を行っている。だが長引く新型コロナ禍の影響は大きく、4月からの累計では2桁に近い大幅ダウンで経営は厳しい。在庫面では季節の変わり目と併せ商品の切り替えがあり品薄・品切れが顕著になってきた。また、コロナ関連の空気清浄機等は生産が受注に追いつかず継続して品薄が続いている。残念ながらこのような状況の中高齢化のため、廃業店も出てきている。
	石油	今年度は各支部を回り経営懇談会を開催している。11月は鳥羽・伊勢・南志摩地区との懇談会であった。その中で発言。2050年に国内の温室効果ガス排出を実質ゼロにするとの政府の方針であるが我々SS業界は車社会がEVやFCV化と大きく変化して行く中で、どのような形で生き残っていけばよいのかとの意見が出た。この変化の中で生き残って行くには、次世代に向け、まず現状経営を安定させることが一番重要ではなかるうか。大きな不安を抱える前途である。
	スポーツ	11月は概ね天気も良く、コロナ禍の中とはいえ大会も順調に開催された。大会があればスポーツ用品は動く。また、寒さが早くきたので、冬物の消化も良いように思われる。ただ、ここにきてコロナの蔓延が心配である。
商店街	熊野市	先月好評だった朝市イベントでの「青空テイクアウトフェア」を今月も引き続き開催した。各店とも今回も早い時間内での売り切れが出るほど盛況だった。現在出店に関しては市外からの問い合わせもあるが、感染予防も考慮し、しばらくの間は市内と東紀州地域限定での出店制限をして開催を続ける予定である。今月に入り感染者数は増加傾向にある状況であるが、12月に関してはよほどのことがない限り感染防止対策を徹底して開催する方針である。
サービス業	旅館	「Go Toトラベル」「地域クーポン」等の効果により、地域、施設により一様ではないが、対前年同月に近い実績を上げていたようである。「じゃらん」の取扱実績の発表では、三重県は東海地方では最も好調で特に伊勢志摩は全国でも一、二の好調な地域であったようである。しかし、月末にかけて感染拡大、自粛等の報道により、間際のキャンセルが多数出てきているので、先々が不安である。
	測量	仕事柄、コロナウイルス感染の可能性は少なく、作業には影響なし。官、民の委託業務は少なく、下請けが70%を占めている。
	警備	交通誘導の発注は例年通りで、例年通り警備員不足が目立ってきている。
建設業	総合工事業	県内建設企業の受注高の前年同月比は、2ヶ月連続して1.0を割った。11月未までの累計前年度比は1.08であった。国、県ともに早期発注に取り組んだ事であり、1月以降の工事発注も前年同月比1.0を下回る可能性が大きいと思われる。
	内装工事業	11月も対前年同月比で大幅な増加となった。業況としては良い流れが続く事がベストであるが、ここにきてコロナウイルス感染拡大がみられ、今後どのような状況になるかは予測できない。
	水道工事業 (亀山)	特になし。
運輸業	トラック	軽油価格はほぼ横ばいで推移した。国内景気は輸出や生産関連が緩やかに回復基調にあり、個人消費も弱いながら回復傾向にあるため、運輸業においても取扱い貨物量の増加が続いている。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	来年6月にHACCPが義務化になるため、しっかりと取り組んでいく。
一般機器	四日市	三重県の部長がコロナ感染症の陽性となり、クラスターの懸念もある。危機管理は一層配慮してもらいたい。医療崩壊があっては困る。
サービス業	旅館	「Go Toトラベル」が延長されたことは業界にとって大変結構な事であるが、予約が週末に集中しすぎるので割引率を週末は低く、平日を高くして平準化できるようにお願いしたい。